

小規模多機能型居宅介護事業所

(別紙2-2)

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年11月1日 (16:00~17:00)
1. 初期支援(はじめのかかわり)	メンバー	藤吉隆志 阿部達郎 春田智 高木貴史 足立守 島崎真理子 岩尾由紀 子 吉田 万里子 山本典子 井手久子 赤津杏咲 中村千登勢

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	4	6	1	12

前回の改善計画	他職種間の連携がうまくできるように、朝の申し送りや夕方反省会、フロア会議などで情報共有していく。また、常に利用者ごとの支援の内容ややり方について検討を行い、改善を行うようにする。情報共有不足を補うために、引き続き、申し送りノートや夕方反省会の活用、改善を行っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	申し送りノートとは別に看護師とのやり取りを行うノートを作る事で、情報の差別化を図り、確認がしやすくなるように工夫しました。朝の申し送りや、夕方反省会については引き続き行っているが、その日の職員体制などで行えない日がありました。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	1	6	4	1	12
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?		8	3	1	12
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	2	8	2		12
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	6	4		11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
今年度より、医療関係のみの申し送りノートを作成することにより、業務や介護、医療関係の記録の差別化を図る事ができ、見やすくなりました。また、夕方の反省会時に、新規の利用者の情報をケアマネージャーから、話をする事で各職員が情報を把握でき、慣れていない時期の声掛けや対応に役立てる事が出来ました。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
コロナ禍ということもあり、新規の利用者について面会などがほとんどできず、開始前の情報が少なくなりました。申し送りノートも、介護と医療を分けて良かった点もあるものの、改善点もまだまだあるため、他職員の意見を参考にしながら、変更していきたいと思いました。また、利用者や家族との関係作りを行うための場所などの提供もコロナ禍のため、ほとんど出来ませんでした。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
申し送りノートや夕方反省会など、職員間で意見を出していくことで、随時改善されているので、引き続き、他職種間の意見も検討することで、改善に努めていく。また、新型コロナウイルスの影響で、事前情報が少ない事もあるが、できる限り面会や体験をしてもらい、情報収集、情報共有を行っていく。	